

多文化共生社会づくり推進事業報告書

1 委託業務名・概要

- (1) 業務名 「地域社会の日本人住民との交流及び日本人学校、ブラジル人学校との異文化交流」

- (2) 概要（事業の要約・事業の目的など）

外国籍県民と日本国籍県民が共生しあえるよう国際交流を図るため、朝鮮学校とブラジル人学校及び公立中学校が文化、スポーツを通してそれぞれの文化・習慣等の相互理解を深める。また、子ども同士の交流を保護者等の交流に発展させ、地域の共生社会の実現を目指す。

各種イベントを通じた地域との交流

以下のイベントを実施し、地域や近隣の学校との交流を図る。

近隣の公立学校及び外国人学校との交流

豊橋朝鮮初級学校開催の運動会や学芸会に近隣学校の児童生徒や住民を招待し、多文化交流を図る。また、豊橋朝鮮初級学校の生徒が近隣の学校を訪問し交流を図る。

- ・実施対象 豊橋朝鮮初級学校、近隣の公立学校及びブラジル人学校の児童生徒及びその父兄等

地域イベントへの参加

豊橋祭りに豊橋朝鮮初級学校の児童生徒が参加し文化の紹介を行う。

- ・実施対象 豊橋朝鮮初級学校の児童生徒

老人ホームの慰問

日本の老人ホームを慰問し、多世代との交流を含めた文化交流を行う。

- ・実施対象 豊橋朝鮮初級学校の児童生徒及び老人ホーム入所者

2 実施事業について

実施時期

(1) 平成 18 年 7 月 1 日(土)～平成 19 年 2 月 28 日(水)

(2)実施地域 豊橋市周辺

(3)事業の具体的内容

1. 近隣の公立学校及び外国人学校との交流

七夕会及び食文化交流(平成18年7月7日)

- 朝鮮学校学生27名がEASアルgeriaデハール校を訪ね七夕物語の紙芝居、笹の葉に短冊、歌などブラジル人学校学生(20名)と一緒に日本の文化に触れた。
- 紙芝居はブラジル学校の子供がポルトガル語、朝鮮学校の生徒が日本語で読む形式で行いました。
- 昼食は各自持参した朝鮮料理、ブラジル料理をバイキング形式で一緒に食べながら食文化を体験した。
- お互いに2曲、歌を歌い楽しい時間を過ごした。
- お互いにポルトガル語、朝鮮語の簡単な挨拶を事前に覚え、挨拶を交わした。
- 日本のボランティア(コスモス会8名)の方が一緒に参加され楽しい一日を過ごしました。

歌、踊りなどの文化交流(平成18年9月20日)

- EAS ブラジル学校生徒17名、先生4名が朝鮮学校を訪れ、それぞれ民族の歌、踊りなどを披露し(各30分)交流を深めた。(朝鮮学校生徒園児33名、先生8名)
- 約1時間運動場で混合チームを作り、ドッチボールをした。
- 日本語がわかる学生(2～3名)を通じてお互いに会話をした。
- ブラジル学校学生は自作のケンダマをおみやげで持ってきました。
- ブラジル学校学生は、次はサッカーをしたいとの意見が多かった。

ブラジル学校学生とのスポーツ(サッカー)交流(平成19年2月20日)

- ブラジル学校生徒13名、朝鮮学校生徒18名、また先生達7名が参加し、羽根井スポーツ広場でサッカー交流をしました。羽根井サッカークラブで指導をしている日本の指導員の方1名参加してくれました。
- ブラジル学校の生徒たちはスポーツ広場に着くと同時に会場の広さに大変喜んでいました。(広いグラウンドでサッカーをするのは初めてということでした。)
- 約40分体をほぐすため朝鮮学校生徒に混ざって、サッカー教室を行いました。日本の指導員の方が指導してくれました。子供たちはとても楽しく参加し、汗を流しました。

- 約40分間、ブラジル学校と朝鮮学校に分かれサッカーの試合、休憩を挟んで40分間混合チームを作りゲームをしました。
- 昼食はシートを敷いて一緒に会話をしながら楽しくしました。昼食後子供たちは時間まで自由にPK合戦をしたり、ボールを使って遊びました。
- 子どもたちが一緒に運動場の整備、ゴールの後片付けをしました。
子供たちは3回の交流で打解けあい、とても仲が良くなりました。(これからもたくさん交流したいとの意見でした。)

朝鮮学校学生が南陽中学校を訪問し文化交流(平成18年9月16日)

- 朝鮮学校学生(18名)が南陽中学校の文化祭に参加し日本の文化、習慣に触れ理解を深めた。
- 朝鮮学校の学生たちは南陽中の生徒の案内で各教室の催しを見てまわり楽しい時間を過ごした。
- 朝鮮学校の舞踊部が日本の学生、父母など約300名の前で民族舞踊を披露し、交流を深めた。

朝鮮学校開催の運動会、公開授業や学芸会に地域の住民を招待し交流

- 10月8日: 朝鮮学校開催の運動会に地域の日本の住民が約20名参加され、朝鮮文化に触れ楽しい一日を過ごした。
- 10月29日: 朝鮮学校開催の公開授業に愛知大学の学生、地域の日本の方8名、ブラジル学校関係者2名が訪れ朝鮮学校の授業を参観、学生の公演を見て理解を深めた。また懇親会も約40分行い、意見交換をした。
- 2月4日: 朝鮮学校開催の《学芸会×バザー》に近隣の日本市民約70名、ブラジル学校関係者2名が訪れ学芸会の参観、朝鮮学校60周年の写真展などを見てまわり朝鮮の文化、食文化に触れました。

特にオモニ会(母親会)によるバザーやピビンバ、チジミ、タコキム、キムチなどの飲食コーナー、販売コーナーは日本の方から大好評を得ました。

2. 地域イベントへの参加

豊橋祭りに朝鮮学校生徒が参加し文化の紹介(平成18年10月22日)

- <ええじゃないか豊橋パレカ>に朝鮮学校生徒27名が美しい民族衣装で約2時間のパレードを行った。
- 学生たちは民族性豊かなお面を作り、民族衣装でチャンダンのリズムに合わせ民族舞踊を踊りながらパレードしました。

- 約2時間のパレードで3回朝鮮学校が放送で紹介され、ラジオのFM 豊橋では実況放送されました。
- 学生の父母18名も一緒について回り、豊橋祭りの日本の文化に触れました。

3. 老人ホームの慰問（平成18年12月11日）

- 朝鮮学校園児、生徒33名及び先生8名が特別養護老人ホーム＜永生苑豊橋＞を慰問し、多世代との交流をしました。
- 司会、進行はすべて学生たちが受け持ち、朝鮮の歌やおどりなどを約50分披露しました。特に＜60歳は青春、70歳、80歳、90歳、100歳まで長生きしてください＞という朝鮮の歌はたくさんの拍手をもらいました。
- 園児、学生たちは自分たちで作ったクリスマスプレゼント（絵や綿で作った雪だるま）を代表者に渡し、＜来年また会いましょう。それまで元気にいてください。＞と挨拶を交わしました。
- 入所者約60名は車椅子で交流会に参加されましたが＜もっと見たい＞、＜来年もまた来てください＞と大変喜んでおられ、また涙を流されている方もいました。
- 朝鮮学校学生たちも高齢化社会の日本で老人たちとどのように接しなければならないか？という面でとても勉強になりました。

3 実施結果（実施の効果等）

- 1) 日本に在住し民族学校で学んでいる外国人の子どもたちが、日本の文化、朝鮮の文化、ブラジルの文化に触れる事ができ、互いの心と立場を少しでも理解することが出来ました。
 - EAS ブラジル学校との交流では同じ日本に住む外国人として、一緒に七夕会など日本の文化に触れ紙芝居、七夕の歌などを通して日本をより身近に感じることが出来ました。
 - EAS ブラジル学校、朝鮮学校生徒が伝統文化を体験する、スポーツをするなど3回の交流により、はじめは消極的でありましたが＜今度はサッカーをやりたい＞、＜これからもずっと交流をしよう＞など積極性、根気強さ、継続性を見せるようになりました。
 - 日本、在日朝鮮韓国、ブラジルとそれぞれ言葉、文化も違う子どもたちが、互いの存在を知り、日本の国でどのように共生していけるのかをそれぞれの子どもたちが考える良い機会になったと思われる。
 - 交流がおわり、＜友達ができた＞、＜名前をおぼえた＞、＜だれだれにまた会いたい＞、＜とても楽しかった＞などの感想が多かった。
- 2) 在日朝鮮韓国人のように日本で生まれ育った在日3世、4世の人達をはじめ在住外国人の永住傾向が高まる中、教育現場及び市民レベルでの息の長い交流により、各自の視野を広げ友好の輪を広げる良い機会になりました。
 - 5～6年前から続いている南陽中学校との交流では、食文化交流、歌や踊りなどの交流など子供たち同士の自主的な交流へと続き、今では将来を担っていく若い世代が互いを理解し、互いの言葉・文化を勉強するなどの活動につながっています。
 - 豊橋祭り参加では、多くの日本の方々に朝鮮学校を理解してもらい、学生、父母達も、日本の方々と一緒に地域の共生社会の実現を目指し、これからも頑張っていこうという思いを持つことができた。
 - 朝鮮学校開催の運動会、公開授業、学芸会にはブラジル学校関係者や地域の日本市民の方が多く来校され、日本に在住する朝鮮韓国人をはじめ在日外国人に対する深い理解と、＜多文化共生社会づくりは身近なところからできる＞、＜まずは会うことから始まる＞という認識をお互いに持つことができました。
- 3) 特別養護老人ホーム＜永世苑豊橋＞を慰問し、入所者との交流を通じて、朝鮮学校の学生たちが高齢化社会の日本でこれからどのように高齢者の方と接し、またどのような環境が必要なのかを考える良い機会になりました。また在日同胞の高齢化も進んでいる中で、日本、在日関係なく地域社会の一員として地域の社会に貢献できる人間に育って行くべきかを考えるきっかけになりました。

4) 交流の環境、土台が強化された。

- 言葉や習慣が違う子供が集い、共同作業をしたり、互いの文化にふれスポーツをすることにより壁を簡単に取り払うことが出来るということが実践でわかりました。＜言葉より実行＞
- ブラジル学校の先生が朝鮮学校の学父母と話し合ったり、食事をする過程でこれから保護者同士の交流へとつなげる基礎を築くことができた。
- 先生同士の協議、協力関係がより一層深まり末永く交流を進める良いきっかけになりました。

4 事業の特質（工夫した点など）

—EAS ブラジル学校との交流では

- ・ お互いに簡単な挨拶、文化について勉強しました。
- ・ 名札を朝鮮語、ローマ字で作って交流した。
- ・ 意思の疎通を図るために直接学校に行き関係者と何度も打ち合わせをしました。
- ・ 決められた交流ではなく子供たちの意見を聞きながら交流を進めました。
- ・ 朝鮮学校開催の行事に先生、生徒、父母たちが自由に参加されるように案内を出しました。
- 南陽中学校との交流では先生たちとの打ち合わせを細かく行い、学生たちが自主的に動くようにしました。また舞踊部の子どもたちがこの日に合わせて猛練習しました。
- 豊橋祭りのパレカでは子どもたちが民族性豊かなお面を作るようにしました。また父母たちも多数見に来られるように案内しました。
- 朝鮮学校開催の運動会、公開授業、学芸会に地域の日本の方がご参加されますようにチラシを配り、また案内を郵送しました。特に学芸会は新聞の広告のチラシで地域の家庭に2000部配りました。また新聞の地域の催しの欄に掲載しました。
- 老人ホーム慰問では少しでも入所者の方に喜んでもらえるようにと学生たちがクリスマスプレゼントを準備しました。

5 今後の課題

1) EAS ブラジル学校との交流に関しては

- 学生たちが色々な交流を通じてお互いを理解し、仲良くなれるということを踏まえて色々な機会を利用してより多くの交流をしなければならない。
- また子どもたちが自主的に、主人公として交流できるように工夫し、発展させて行かなければならない。
- 学校、父母同士の交流に発展させるための研究が必要である。
- 日本学校、朝鮮学校、ブラジル学校などを含めたより多くの外国人学校の交流に発展させる努力をしていかなければならない。

- そのための教員や指導者の輪を広げる必要があると思われる。
- 2) 朝鮮学校が外国人学校の中で長い歴史と経験があるということをふまえ、地域の在住外国人が能力を充分発揮でき、日本人と共に地域社会の一員として、地域づくりに積極的に参加する環境作りを進める上で、在日朝鮮韓国人、朝鮮学校が橋渡しの役割を担っていく必要があると思う。またその為にも朝鮮学校が豊橋市内の日本学校との交流、日本市民との交流を深めより多くの日本の方の理解を得ていきたいと思います。
- 3) 日本学校、朝鮮学校、ブラジル学校などの先生を含めた「多文化共生社会づくり」のための協議会などを作って息の長い交流をしていくことが大切であると思います。
(外国人学校だけの協議団体ではなく)

6 その他参考事項

特にありません。